

子宮頸がんとは？

日本では毎年約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の方が亡くなっています。
また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。

子宮頸がんにかかるのはなぜ？

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。
HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられています。感染は、主に性的接触によって起こり、女性の多くが一生涯に一度は感染すると言われています。

子宮頸がん対策には、早期発見と予防が大事！！

早期発見にはがん検診

下記のいずれかの方法を選んでご利用いただけます。（年度にいずれか1回のみとなります）

個別検診（受診券の範囲内であれば無料）

20歳以上の女性を対象として毎年9月中旬に送付する『子宮がん検診受診券』を利用し、各自、委託医療機関にて検診を受けることができます。

集団検診（無料）

令和6年1月21日（日）に健康づくりセンターにて実施予定です。

令和5年度の乳がん・子宮がん検診の日程はこの1日のみとなります。

予防にはHPVワクチン

（子宮頸がんワクチン）

子宮頸がん予防にはワクチン接種があります。ところが、日本では副反応と思われる症例の報告により、9年間国による個別案内が見合され、接種率はほぼゼロになりました。現在は再開され、少しずつ接種率も上昇しています。

小学6年生から高校1年生に相当する女子

公費（無料）

平成9年度～平成18年度生まれの女性

公費（無料） ※令和7年3月まで

今年度から、従来のHPVワクチン（2価・4価）よりもさらに予防効果の高いワクチン（9価）も公費で接種できるようになりました。ご希望の方は、保健福祉課までご連絡ください。

欧米では高い検診率とワクチン接種率のおかげで、過去のがんとなりつつあります。

日本もそうなるといいですね！



申し込み・問い合わせ先

保健福祉課 健康支援グループ
保健師 菊地

☎0139-55-4460